

雇用型経営を核とした宗像園芸産地の維持・拡大 ～経営安定に向けた農作業ヘルパー活用～【平成28年度福岡県普及現地事例情報（北筑前普及指導センター）】

[抄録]

宗像地域の園芸農業は、高齢化により生産者数が減少している。一方機械化や自動化等の省力技術導入により、農家の経営規模は拡大する傾向にあるものの、市場出荷量は減少するなど産地構造が大きく変化してきている。

農家の経営強化に向けて生産規模の維持拡大を図るためには、定植時期や収穫時期など農作業の集中する時期の労働力不足を解消する必要があることから、雇用システムを活用して労働力の確保に取り組んだ。

[本文]

詳細は添付ファイルを参照ください

# 雇用型経営を核とした宗像園芸産地の維持・拡大

～ 経営安定に向けた農作業ヘルパー活用 ～

## 1 課題化の背景

宗像地域の園芸農業は、高齢化により生産者数が減少している。一方機械化や自動化等の省力技術導入により、農家の経営規模は拡大する傾向にあるものの、市場出荷量は減少するなど産地構造が大きく変化してきている。

農家の経営強化に向けて生産規模の維持拡大を図るためには、定植時期や収穫時期など農作業の集中する時期の労働力不足を解消する必要があることから、雇用システムを活用して労働力の確保に取り組んだ。

## 2 活動内容

### (1) 雇用を活用した経営の維持・拡大

- 農家及び農作業ヘルパーへのアンケートを実施し、雇用システムの活用が増加している現状での課題を再点検し、各品目の部会会議等において農作業ヘルパーの利用推進を啓発。
- 雇用に係る認識と雇用スキルの向上を図るため、イチゴ雇用経営を実践している先進農家による雇用管理研修会を実施。・・・写真
- 農作業ヘルパー利用者数の増加に対応するため作業マニュアルを作成・配布(図1)。
- (一財)むなかた地域農業活性化機構、宗像市、福津市、JAむなかた、同関係部会部会長、両市の認定農業者協議会会長、普及指導センターで構成する雇用システム実証会議に参画。

定例的に打ち合わせ会議を開催することにより安定したシステム運営に向けた活動を支援。



【雇用実践イチゴ農家による雇用研修会】



【図1 雇用ヘルパ育成のための作業マニュアル】

(2) JA部会を核とした園芸品目のパッケージング体制整備支援

- イチゴ生産の収量及び品質向上に向けてハウス内の管理作業時間の確保を図るため、調製労力を代替するパッケージ稼働を支援した。

(11月28日稼働開始)



【イチゴ生産者へのパッケージセンター稼働に向けた説明会】



【平成28年11月28日稼働したイチゴパッケージセンター】



【パッケージトレーナーによるパック詰め指導】

### 3 主な成果

(1) 雇用を活用した経営の維持・拡大

- 農作業ヘルパー活用農家数が平成28年12月末現在で延べ80戸、農作業ヘルパー紹介者数が延べ248名となった。規模拡大農家が4戸となった。
- 農作業ヘルパーに対する農家の認知度が高まり、今後の需要増が見込まれるようになった。また、無料職業紹介所を介さずに雇われる「かこいこみ」が進み、雇用が定着してきた。
- イチゴ、かんきつ、イチジクの農作業マニュアルを作成・配布し、農作業ヘルパーの技術スキル向上が図られた。
- 農家アンケートから、雇用拡大や農作業ヘルパーのスキルアップが求められていることが明らかになった。

(2) JA部会を核とした園芸品目のパッケージング体制整備支援

- イチゴのパッケージセンターを、7戸が活用し、調製労力の削減や生産性の向上が図られ、2戸が規模拡大し新規栽培者の育成にもつながった。
- 農作業ヘルパーアンケートでは、「今後とも仕事を増やしたい、続けたい」という意見が多くよせられた。また、雇用環境改善の意見が出され、今後の課題として改善を図っていくこととした。